



136号

2021年 3月・4月



しごと どうぐ
仕事は道具にあり Work depends on tools

オンラインで最初の日本語の 歌コンテスト

2021年1月30日、午後3時に在コルカタ日本総領事館の援助で NKK により最初の日本語の歌コンテストがオンラインで開催された。コルカタとシャンティニケタンの日本語学習者から多くの応募があった。しかし、時間制限のせいで、早く申し込んだ最初の 20 人だけがイベントに参加する資格を得た。

応募者は自分の歌を録音してその録音を送信する必要があり、最高点の3名が1位、2位、3位の受賞者に選ばれた。審査員は在コルカタ日本総領事館の方々だった。副領事の田村理沙さんが、ディープロ・バネルジーさん(一位)、シュボスリー・チャトパディヤイさん(2位)、リトウィカ・ビスワスさん(3位)の3人の受賞者の名前を公表された。



ディープロ・バネルジー

コンテスト中参加者 20 名全員の録音が演奏され、美しい声が皆を喜ばせた。これは本当にユニークなイベントで NKK の役員のクスブ アガルワルさんが上手に司会された。このようなイベントをもっと開催していきたいが、次は直接会って楽しめるイベントになることを願う。

ブナム ナンダ デ

先生のデスクから

私が 17 歳の頃教師になったのは運命で、それは経済的な問題からではなく自分自身の情熱からだったと言える。ところで我が家の皆、例えば両親の二人、おじとおばもこの職業だった。だから私はこの職業をずっと続けて祝福が多い環境の中で人生を楽しむことが出来たので幸運だったと思う。

70 年代の教育制度と現代の教育制度にははっきりとした対照がある。昔は教師が時々ぼんやりしている生徒に体罰を与えた。後で

その同じ生徒が教師に会い、手で先生の足元を触り「先生、私が今日、成功した人間になったのは先生の体罰のおかげです」と言う。今日のシナリオは巨大なビルの校舎の教師が、規律を守らない生徒を叱責する。その後この教師は生徒の親の会に訴えられ謝らなければならなくなる。

私は公認の学校の教師になったことがないので、上記のような屈辱的な行為を避けることができた。その反面私はいつも生徒たちとの友好的な関係を楽しんできた。これは私にとって幸運だったと信じて下さい。今も昔の生徒たちに出会う時同じような敬意と感謝の気持ちを表されるのでとても満足している。

私は皆さんの心の中に隠れている教師がいると信じている。その役割を果たすように皆さんに提案する。とても平和な生活を維持するための良い精神状態になり貴重な体験になると確信する。

“Educating the mind without educating the heart is no education at all” Aristotle

Partha Sarathi Mitra

学生が話すこと

私が覚えている限り、いつも自分の知識の境界を越えて探求したいと思っていた。日本語を学ぶこともその知識の目標に向けた努力だった。日本とその独特の文化に対する私の好奇心は、私が 15 歳のときに形になり始めた。日本のアニメはいつも友達の話の中に出てきていた。有名な「デスノート」は素晴らしい作品だと教えてくれた友人を思い出す。何か新しいことに本当に興味を持ったのは、おそらくそれが初めてだっただろう。私はたくさんさんのアニメを見始め、同時に私がとても興味をそそられた日本語を理解しようとした。当初は英語の吹き替えのアニメを見ていたが、次第に英語の字幕付きの日本語で見始めた。日本語との絆が深まり、その複雑さを理解したいという好奇心が高まった。日が経つにつれ、日本の文化や慣習の多様性に深い魅力を感じた。

2 ページに続く...

サンカル マンダルさんとのインタビュー



サンカル マンダルさんのお住まいはボンガオン（ノース 24 パルガナ）。現在「富士山本語アカデミ」で日本語を教えられている。彼は日本に12年間も滞在された。サンカル マンダルさんと会話の抜粋：

Q: 現在富士山日本語アカデミで日本語を教えておられますね。

A: はい。2017年日本から帰りこの学校で日本語を教えています。

Q: マンダルさんは1999年、科学学士号を卒業されました。

A: はい。でも2005年私は学生として日本へ行きました。そこで2年間日本語の勉強をしました。

Q: その後情報技術を習い始めました。

A: はい。2007年私は2年間の情報技術を習い始めました。それから私は情報技術の別の部門に入りました。コース修了後、日本でビジネスを開始し、3年間継続しました。でもその後韓国の会社に入社しましたが、2017年に家の事情でインドに帰りました。

Q: なぜ日本語の勉強をし始められたのですか。

A: 実は子供のころから日本が好きで日本について色々なことを読んだことがあります。子供として、私は日本のたくさんのことが好きでした。それで私は日本について夢を見ていました。いつか日本に行くことを夢見ていました。日本に行って夢の国とコミュニケーションできるように、日本語を学びたかったです。

Q: マンダルさんは基本的にビジネスマンなのに日本語を教えています。

A: 基本的には家がレストランを経営していて、輸出業もしていますが日本語を教えるのが一番好きです。特に私は子供たちに教えるのが大好きです。他の仕事では見つけられない喜びを日本語を子供たちに教えることに見つけられます。

Q: マンダルさんは日本に12年間滞在しました！そして日本でもビジネスをしていました。ですから、日本人とその文化についての豊富な経験がありそうですね。

A: はい。私はそのたくさんの場所に行きました。私は日本人と文化がとても好きです。彼らは毎日の生活で時間をとても大切にしています！また親切で、ごまかしません！彼らはとても真面目な人達です！日本で沢山の有名な場所に行きました。

Q: 何か思い出深い事件を思い出されませんか。

A: 記憶に残っている事件がたくさんあります。しかし、今でも1つの事件を思い出すことができます。ある日財布をなくしてしまいました。その中には12万円のキャッシュカードやクレジットカードが入っていました。途方に暮れた私は本当に何をすべきか分からなかった。でも翌日、ある日本人が財布を返してくれました。彼は途中でそれを拾いました！彼らは他人のお金や物を盗むことは想像できません。

Q: 日本語を学ぶことは良いキャリアへの効果的な方法だと思われますか？

A: はい。日本語が分かれば様々な日本やインドの会社で仕事を見つけることが出来ます。日本語を知っている求職者には、良い会社や仕事をたくさん見つけることが出来ます。

Q: 趣味は？

A: 特にインドの映画を見ること。

Q: マンダルさんのインドの学生に対してアドバイスは？

A: 実際、一生懸命勉強しなければなりません。苦勞なしに何も達成できません！だから焦点を決め目的地を目指してください。

アロークバス

学生が話すこと

1ページから続く...

私は日本とその習慣、人々、芸術と音楽、その国の料理、そしてもちろん、ポップカルチャーについての無数の記事を読み始めた。私と大きく異なる文化を理解しようとするのはとても新鮮な感じだった。数々の記事を読んだり、日本に関する数え切れないほどのユーチューブビデオを見たりした後、私は最終的に正式に日本語を勉強することにした。2019年私はRKMのコースに参加した。当初、日本語を学ぶという考えは、大変な事のように思えたので、私はかなり緊張していた。ありがたかったことに、私の先生は並外れた先生で私がこの言語とそれが提供している様々な機会を賞賛し始めたのは彼女の指導を通してだった。先生は私の疑問を解消するように助け、私に複数のイベントに参加するように勧められた。私の野心は劇的に変わった。日本語と英語と一緒に勉強し続け、翻訳者や教師として働きたいという希望だ。日本は、世界で最も識字率が高く、技術的に進んだ国の一つであり、また世界第3位の経済大国であり、チャンスの国となっているそうだ。日本で働きその深遠な文化を目の当たりにすることが私の夢だ。

アンカナ バス



アンロック 日記-1



ドロン シンハ

家で3か月間鳥籠に入れられたような時間の後、私たちは再び籠を出たばかりの鳥のように自由になった。また外に出られるのがとても嬉しかったが、周りに気を付けなければならなかった。アンロック後、私が最初にしたことは、ロックダウンの前に定期的に行っていた朝の散歩。しかし、マスクを着用することは重要だ。私はいつも朝の時間がとても平和であると感じていた、特にジョギングや運動のためにどこの公園にも行ける。緑の木々、さわやかな酸素、久しぶりに自由な鳥のように感じた。ロックダウンの間、誰の家にも行かなかった。私はいつも私のお気に入りの場所であるガンジス川を訪れた。アンロックのプロセスは6月から始まり、11月に終わったけど私は人の大勢集まる所を避け、ドゥルガーブジャを楽しめなかった。当時はずっと家で過ごした。今、すべてが正常になりつつあり、すぐにお互いに会えるようになることを願っている。再び幸せになりますように！

期待と興奮

第24回目印日学生会議



日本とインドの交流を開花させるために、何年にもわたって行われてきた幾つかの美しいことがある。日本とインドは草の根の交流を保つために、長年に渡って最も興味深いことをしてきた。日印関係の40周年を記念すべく、酒向雄豪監督はインドの音楽家のヴァンラジ・バティア氏と共同で映画「ラーマヤナ、王子ラマの伝説」を制作した。この映画はインド神話が日本のアニメスタイルで描かれていることで国際的な大ヒット作となり、世界中で高く評価された。映画はまた、両国間の外交関係の強さを示しており、映画を通して、両国が共有する関係を特別に高揚した。

何年間にもわたって、インドと日本の通常の関係と同じように、両国の若者が取り入れたアイデアを共通のプラットフォームに留めておくための努力がされた。このプラットフォームは、インド側の協力機関である日本語会話協会が主催する印日学生会議によって提供されており、その第24回目は間もなく2月に開催される。印日学生会議は1997年に始まり、毎年開催されており、インドからの学生は3年間ごと日本に行き、それ以外の年は日本人の学生がインドに来ている。これにより学生が非常に個人的な観点からお互いの文化について深く学び、若くて受容的であるのでお互いの生活を関連させることができるという交流につながった。

しかし、私たちのみんなが知っているように、2020年に世界は今まで誰も見たことがない電光石火の速さで向かって来る悲劇に襲わ

れた。日本とインドの両国が、世界中で急速に広がる

コロナウイルスのパンデミックの甚大な被害を受け、それが経済関係を非常に悪くした。両国は、恐ろしいコロナウイルスから市民を救うために独自の工夫に対処していて、日本は、2020年の東京オリンピックを実施するかどうかを決定する独自の問題に取り組んでいた。残念ながら、ウイルスはとても危険で悲劇的な状態だったので、2020年のオリンピックは一時的に中断された。インドは他の多くの国々との難しさを理解した。オリンピックが自国で行われることが若者にとってどんなに興奮することかを理解できる学生は、その延期がどんなに困難になるか個人的によく分かった。印日学生会議は、両国の若者が再び彼らの不満に焦点をあてるプラットフォームとなっている。

ラトゥラ ダッタ
(次版に続く...)

3月・4月プログラム

- ◆ オンライン 35 回目ミニ印日文化祭： 2021年3月13日
18:00時から19:00時
(リンクは3月10日後
NKKフェイスブックとウェブサイト)
- ◆ オンライン聴解練習： 2021年4月10日
プナム ナンダ デ先生より
17:00時から18:00時
(参加情報についてそれぞれの先生に連絡)

日本語クロスワード
(3月 - 4月)

1	2	3		4	5
6				7	
8			9		
10		11			
		12		13	
14				15	

ACROSS

- 1) Disappointment
- 6) To understand
- 7) Board
- 8) Hoop
- 9) Crack/gap
- 10) Thick voice
- 12) Faraway
- 14) Relaxation
- 15) Mist

DOWN

- 1) Hurried/quickly
- 2) Hand mirror
- 3) Spring (season)
- 4) Chill/cool
- 5) Horse/Sword beans
- 9) To fix/install
- 11) Cooked rice
- 13) Oyster

モハシユウエータ バス ムカルジー

(1月-2月)

日本語のクロスワードの答え

1 か	2 が	3 や	4 か	し	5 い
6 じ	ん	か	く		ち
7 き	じ	ん		8 さ	じ
9 ま	つ		10 は	し	る
ぐ		11 か	ら	が	し
12 ろ	う	ど	う	さ	い

綴り換え- 70

下記のボックスに言葉を元の状態に戻し、丸字をつないで答えを見つけましょう。



1. じょうみ (Surname)

ことわざは?

○ □ □ □ □

2. えないをざる (Cannot help)

○ ○ □ □ □ □ □

3. かいき (Machine)

○ ○ □ □

4. ざいけい (Economy)

□ □ □ ○ □ □

5. がるいしある (Careless)

□ □ ○ □ □ □ □ □ ○

6. をみくがわざ (To improve one's skill)

○ ○ □ □ □ □ □ □

7. ばんるすでんわ (Answering machine)

○ □ □ □ □ □ □ □ □

シヨントウ デブナート

綴り換えの答え- 69

- 1. ねずみ
- 2. あこがれる
- 3. をもとして
- 4. かぶしき
- 5. るすばんでんわ

ね □ こ □ を □ か □ ぶ □ る □

編集者：トヌスリ チャタルジー・アローク バス 翻訳者：トヌスリ チャタルジー

桜... 日本語会話協会の隔月のニュース レター